

2015年3月期

(第39期)

## 第2四半期決算 補足説明資料

株式会社 フォーカスシステムズ

2014年11月

本資料は、2014年11月7日現在において入手可能な情報、及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2014年11月7日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

単位:百万円

	2014/3期	2015/3期	前期比	
	上期 実績	上期 実績	増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>6,442</b>	<b>7,286</b>	<b>843</b>	<b>13.1%</b>
公共関連事業	2,005	2,518	513	25.6%
民間関連事業	3,842	4,248	406	10.6%
セキュリティ機器関連事業	595	518	△76	△12.8%
<b>営業利益</b>	<b>248</b>	<b>295</b>	<b>46</b>	<b>18.7%</b>
<b>経常利益</b>	<b>240</b>	<b>270</b>	<b>30</b>	<b>12.5%</b>
<b>純利益</b>	<b>115</b>	<b>165</b>	<b>49</b>	<b>42.9%</b>

情報システムに関する投資意欲は、公共・民間ともに、前年度からの回復傾向が継続している。

特に公共関連事業においては、前年からの回復傾向が顕著。売上・利益ともに順調に推移。

セキュリティ機器関連事業における減益は、前年上半期には、補正予算等の特需による大幅な売上・利益が計上されたことによる。官公庁や大手民間企業等にも専門担当が増え、デジタル・フォレンジックの社会的ニーズは高まってきている。

# 貸借対照表

単位:百万円

区分	2014/3期 第2四半期	2014/3期 期末	2015/3期 第2四半期
(資産の部)			
流動資産	5,469	6,428	6,586
固定資産	5,507	5,408	6,979
有形固定資産	3,733	3,741	3,748
無形固定資産	39	60	113
投資その他の資産	1,734	1,606	3,118
<b>資産合計</b>	<b>10,977</b>	<b>11,837</b>	<b>13,566</b>
(負債の部)			
流動負債	3,713	4,102	4,033
固定負債	2,485	2,705	3,524
<b>負債合計</b>	<b>6,198</b>	<b>6,807</b>	<b>7,557</b>
(純資産の部)			
資本金	2,905	2,905	2,905
資本剰余金	1,468	1,468	1,468
利益剰余金	379	719	745
自己株式	△706	△706	△706
株主資本合計	4,046	4,386	4,413
評価・換算差額等	732	642	1,596
<b>純資産合計</b>	<b>4,779</b>	<b>5,029</b>	<b>6,009</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,977</b>	<b>11,837</b>	<b>13,566</b>

総資産は、前事業年度末と比較して、1,729百万円増加しました。これは主に、売掛金の減少299百万円があったものの、仕掛品の増加、75百万円、投資有価証券の増加1,481百万円、ソフトウェア仮勘定の増加55百万円、現金及び預金の増加374百万円によるものです。

単位:百万円

区分	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	2015/3期 第2四半期
売上高	5,704	6,442	7,286
売上原価	5,157	5,674	6,392
売上総利益	547	768	893
販売費及び一般管理費	577	519	598
営業利益または損失(△)	△30	248	295
営業外収益	43	36	26
営業外費用	45	44	51
経常利益または損失(△)	△32	240	270
特別利益	525	—	—
特別損失	705	—	1
税引前四半期純利益 または純損失(△)	△212	240	269
法人税等	—	125	104
四半期純利益 または純損失(△)	△212	115	165

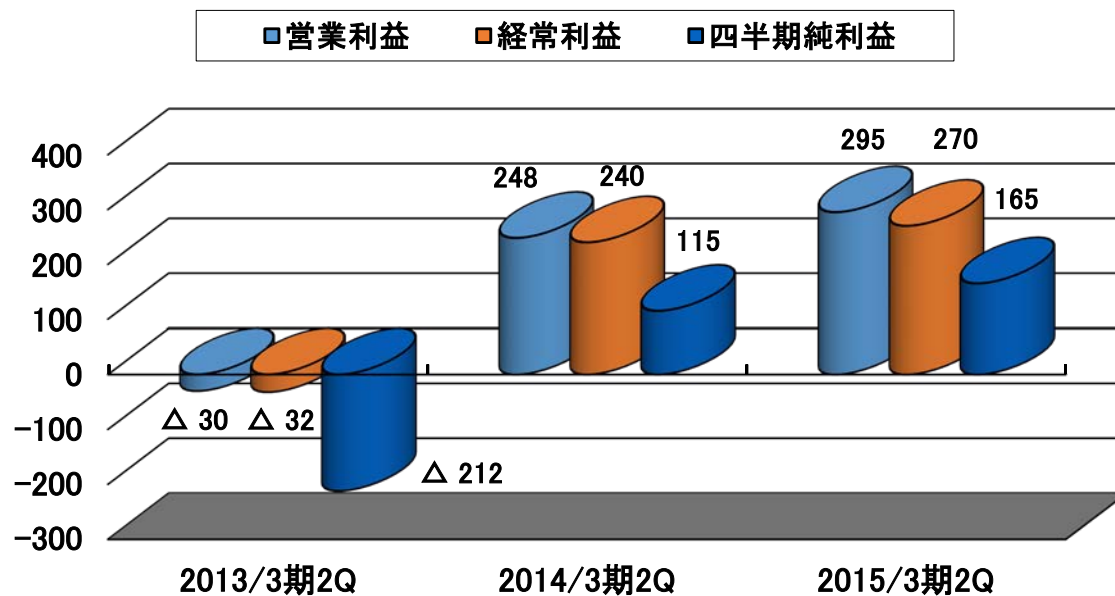
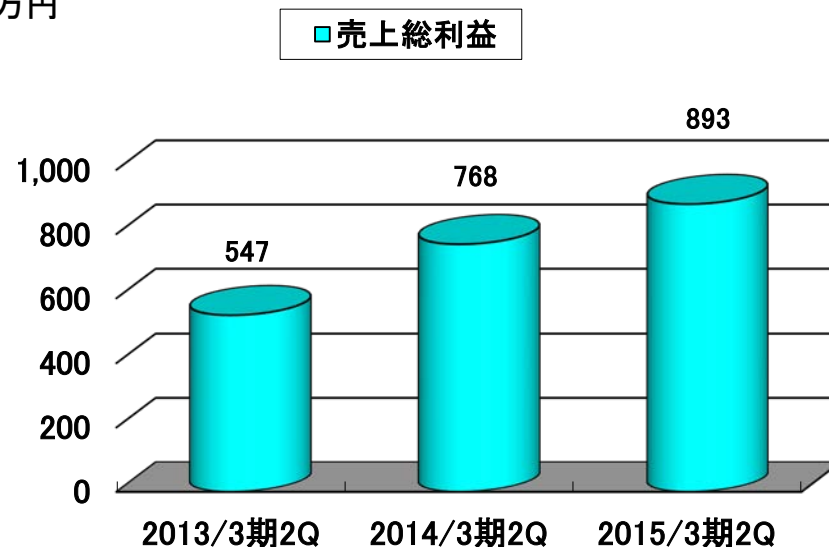
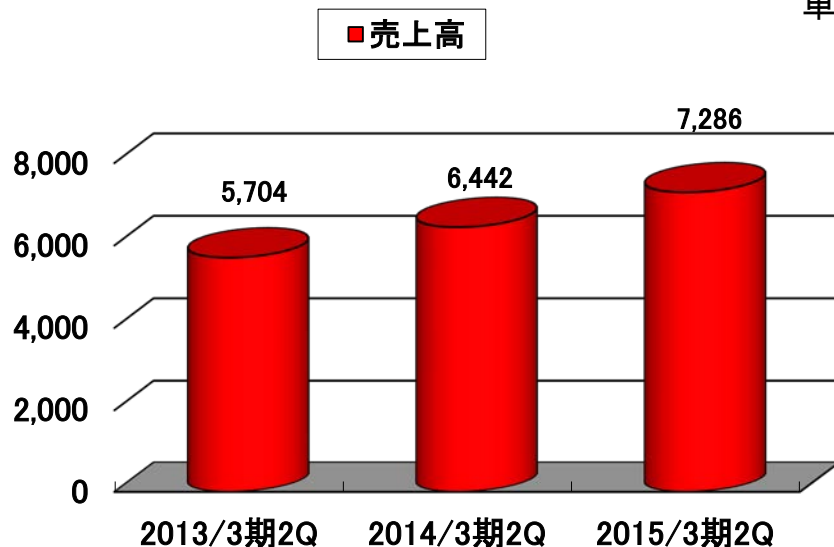
売上高は、前年同四半期に比べ843百万円増加しました。  
これは主に、公共関連事業の増加513百万円、民間関連事業の増加406百万円によるものです。  
これにより、売上総利益は125百万円増加しました。

前々年第2四半期における特別利益525百万円は、主に有価証券売却益301百万円、保険解約返戻金222百万円によるものです。  
また、特別損失705百万円は、主に役員退職慰労金704百万円によるものです。

上記の結果、当第2四半期の純利益は165百万円となり、前年第2四半期に比べ49百万円の増加となりました。

# 經營成績(直近3年)

単位: 百万円



単位:百万円

区分	2014/3期 第2四半期	2015/3期 第2四半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	300	213
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△48	△145
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△323	281
IV 現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	△71	348
V 現金及び現金同等物の期首残高	2,395	2,910
VI 現金及び現金同等物の四半期末残高	2,323	3,259

## I 営業活動による キャッシュ・フロー

法人税等の支払額364百万円があった一方で、売上債権の減少額299百万円、税引前四半期純利益269百万円等により、営業活動の結果得られた資金は、213百万円となりました。

## II 投資活動による キャッシュ・フロー

貸付金の回収による収入6百万円があった一方で、無形固定資産の取得による支出73百万円、保険積立金の積立による支出32百万円、定期預金の増加額25百万円、有形固定資産の取得による支出17百万円等により、投資活動の結果使用した資金は、145百万円となりました。

## III 財務活動による キャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出735百万円があった一方で、社債の発行による収入588百万円、長期借入れによる収入500百万円等により、財務活動の結果得られた資金は、281百万円となりました。

## VI 現金および現金同等物の期末残高

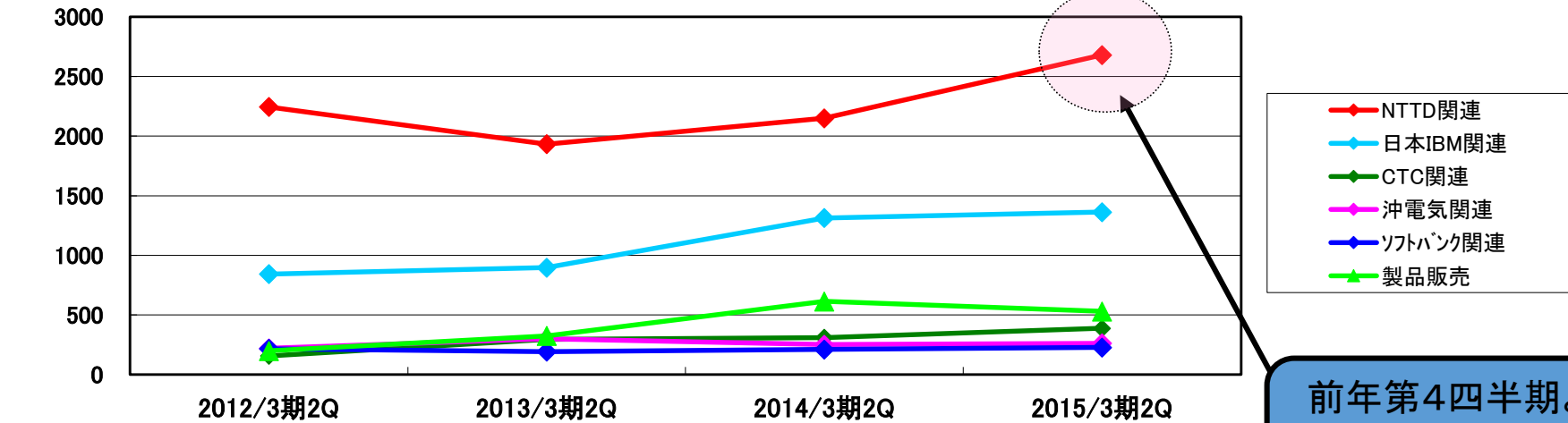
上記の結果、当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ348百万円増加し、3,259百万円となりました。

単位:百万円

	売上高（各期第2四半期）				
	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	
公共関連	2,150	1,951	2,005	2,518	<p>民主党への政権交代以降、計画見直し、予算縮小など、厳しい状況が続いていたが、前年上半期からの回復傾向が顕著になってきた。</p>
民間関連	3,262	3,451	3,842	4,248	<p>需要が順調な中、既存ユーザとの取引深耕、新規ユーザ獲得の両面より受注体制を確立してきた。</p>
セキュリティ機器関連	175	302	595	518	<p>前年上半期には補正予算による特需があったため減収となったが、官公庁、大手企業ともに、フォレンジック技術への社会的ニーズは増している。</p>

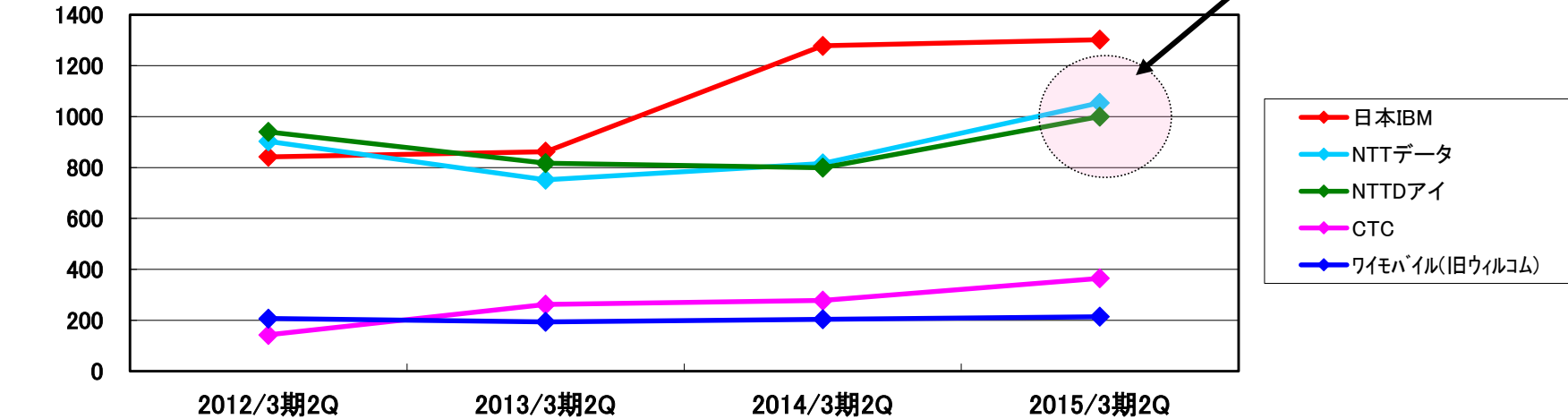
# 主要顧客別売上高推移

顧客グループ別



前年第4四半期より  
公共関連の回復傾向  
が顕著。

主要顧客別





	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 年間配当金
通気予想	14,500	900	850	500	20円 00銭



## ご 参 考

1. 企業理念および企業集団の状況
2. 決算データ推移
3. 当期製品トピックス



## 経営理念

「社員すべてが心と力を合わせ、企業の発展と成長を通じて、  
未来のより良い環境作りに貢献する。」

## 経営ビジョン

私たちは、以下の3つの責任を果たしていきます。

### 1. 個人責任

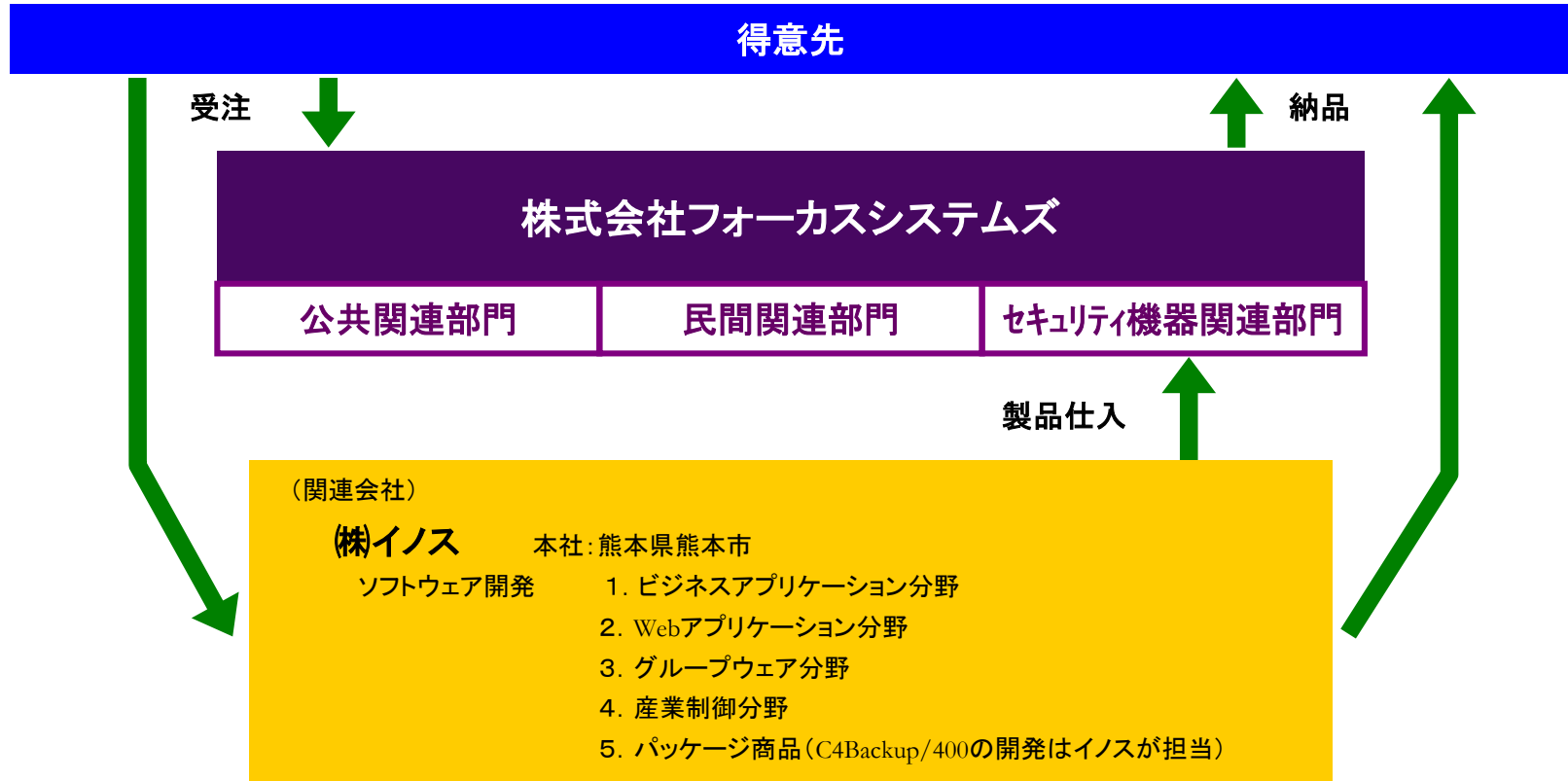
人間性と技術力を磨き、最高のサービスをお客様に提供します。

### 2. 企業責任

社員相互が信頼し合い、安心かつ働きがいのある会社を作ります。

### 3. 社会責任

お客様、投資家、株主様から信頼され、  
社会から必要とされる会社を作ります。



## 関連会社の状況 (平成26年9月)

社名	持分 (%)	売上高 (千円)	経常利益 (千円)	純利益 (千円)
(株)イノス	20.0	479,227	△11,873	△6,983

## 第2四半期累計期間 決算データ推移

非連結 第2四半期	2009/9/30	2010/9/30	2011/9/30	2012/9/30	2013/9/30	2014/9/30
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高(千円)	5,405,887	5,272,198	5,588,095	5,704,998	6,442,980	7,286,457
営業利益(千円)	△150,330	△99,155	△81,298	△30,292	248,863	295,330
経常利益(千円)	△171,456	△115,555	△94,635	△32,715	240,499	270,541
四半期純利益(千円)	△241,116	△50,107	△94,635	△212,676	115,459	165,028
1株あたり四半期純利益(円)	—	—	△11.96	△29.59	16.68	23.84
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
発行株式総数(株)	9,195,365	9,195,365	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471
純資産額(千円)	4,636,314	4,575,350	6,079,150	4,827,827	4,779,151	6,009,495
総資産額(千円)	9,502,814	9,173,406	12,456,903	11,374,909	10,977,520	13,566,857
自己資本比率(%)	48.8%	49.9%	48.8%	42.4%	43.5%	44.3%
営業活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	108,305	△1,299,726	300,713	213,226
投資活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	△79,067	863,407	△48,877	△145,357
財務活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	106,346	237,741	△323,577	281,017
現金及び現金同等物の四半期末残高(千円)	—	—	1,797,688	2,286,015	2,323,759	3,259,384
従業員数(人)	885	917	909	911	941	983

(注) 平成23年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成23年3月期までの1株あたり四半期純利益、営業活動によるキャッシュフロー、投資活動によるキャッシュフロー、財務活動によるキャッシュフロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

非連結通期	2009/3/31	2010/3/31	2011/3/31	2012/3/31	2013/3/31	2014/3/31
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高(千円)	12,041,114	11,702,747	11,401,654	11,909,800	12,353,938	14,146,242
営業利益(千円)	61,496	127,368	187,847	△47,127	439,240	887,789
経常利益(千円)	13,687	88,538	145,650	△58,532	416,311	849,751
当期純利益(千円)	△155,840	△157,384	86,844	151,563	241,130	455,647
自己資本当期純利益率(%)	—	—	1.8	2.7	4.4	9.2
総資産経常利益率(%)	—	—	1.5	△0.5	3.4	7.4
売上高営業利益率(%)	—	—	1.6	△0.4	3.6	6.3
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
純資産額(千円)	4,732,367	4,677,323	5,045,697	6,047,149	4,868,962	5,029,600
総資産額(千円)	9,895,643	9,060,966	10,129,135	13,208,330	11,195,332	11,837,231
自己資本比率(%)	47.8	51.6	49.8	45.8	43.5	42.5
1株当たり純資産(円)	546.45	540.09	619.37	821.40	703.26	726.46
従業員数(人)	827	867	895	882	899	941

(注) 平成22年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成22年3月期までの総資産経常利益率、売上高営業利益率は記載しておりません。

非連結通期	2009/3/31	2010/3/31	2011/3/31	2012/3/31	2013/3/31	2014/3/31
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
営業活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	242,088	314,081	△1,020,472	667,012
投資活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	435,676	442,707	875,377	△119,320
財務活動によるキャッシュフロー(千円)	—	—	△158,008	65,699	56,002	△32,694
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	—	—	1,662,104	2,484,592	2,395,500	2,910,498
発行株式総数(株)	9,195,365	9,195,365	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471
1株当たり当期純利益(円)	△17.64	△18.17	10.20	19.52	34.03	65.81
1株当たり配当(円)	0	0	10.00	10.00	15.00	20.00
配当性向(%)	—	—	98.0	51.2	44.1	30.4
純資産配当率(%)	—	—	1.7	1.3	1.9	2.8
株価 年度高値(円)	537	450	600	659	679	858
株価 年度安値(円)	375	211	220	418	552	442

(注) 平成22年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成22年3月期までの営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

## ～ 放送映像からインターネット動画、静止画まで一貫したソリューションを提供～ フォーカスシステムズ、三菱電機インフォメーションシステムズ 電子透かし製品の販売を共同で推進

株式会社フォーカスシステムズ(以下Focus)と三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社(以下MDIS)は、電子透かし製品の販売を共同で推進することで合意しましたのでお知らせします。

デジタルコンテンツの不正な流出・使用への対策として、目視では識別できない情報をコンテンツに埋め込む電子透かし技術の利用が拡大しています。その対象は静止画から動画、音声と広がり、また動画であっても高精細な放送用やインターネット配信など電子透かしに要求される技術も多様化しています。

一方で、デジタルコンテンツ関連業界では、放送事業者がインターネットによるサービスに進出するなど、一つのコンテンツを複数の媒体で展開する「ワンソース・マルチユース」の動きが加速しています。

こうした動向に対応する今回の両社の協業により、デジタルコンテンツ流通・販売事業者の多様なコンテンツに関する電子透かし導入の要求に対して、一貫した製品提供及び技術サポートを提供することが可能になります。

両社はそれぞれ、MDISの「映像電子透かしソリューション」並びに、Focusの静止画・音声・動画対応の電子透かし「acuagraphy(アクアグラフィ)」及びインターネットの巡回監視サービス「acuapatrol(アクアパトロール)」を、一貫したソリューションとして販売します。

電子透かしを利用したシステム構築については主にMDISが担当します。

両社は、デジタルコンテンツの不正利用を抑止する、いわゆるソーシャルDRM(注1)としての電子透かし製品の普及を中心に、様々な利用方法を通じて、コンテンツ市場の健全な発展に貢献していきます。(注1)DRM(Digital Rights Management):デジタル著作権管理

### 【MDIS「映像電子透かしソリューション」の特長】

高精細な放送品質のコンテンツにリアルタイム(ストリーミング)で電子透かし埋め込みが可能です。また、不正使用者を特定可能な個別埋め込みの電子透かしや、電子透かしを埋め込んだコンテンツをスマートフォンで読み取ることで、利用者を指定のウェブサイトへ誘導するというシステムの要求にもお応えします。

### 【Focus「acuagraphy」の特長】

国内で数多くの販売実績がある電子透かし製品です。特に静止画において拡大縮小、回転といった加工への耐性が強く、インターネット上の掲載画像を常時巡回監視するサービス「acuapatrol」もご提供可能なため、多様化する不正利用の対策に最適です。動画用電子透かし、音声用電子透かし等、豊富な品揃えで様々なデジタルコンテンツへの対応が可能です。

以上



## サイバーフォレンジックセンター開設

私どもは、2004年から本格的にフォレンジックビジネスを展開して参りました。多くのお客様の声をお聞きしている中で、近年“サイバーフォレンジックセキュリティ”に対するニーズの高まりを感じずにはいられません。

しかし、日々高度化するサイバー攻撃に対応するには高度なスキルや環境が必要不可欠です。自社でサイバー攻撃に対応する体制を整えたいお客様、定期的なサイバーセキュリティ監査や、有事の際の事後対応をアウトソーシングしたいお客様、色々なお客様がいらっしゃいます。

そこで、あらゆるご要望に応えられるよう2014年6月にオフィスを移転し、サイバーフォレンジックラボとセミナールームを拡充致しました。

サイバーフォレンジックセンターでは、潜在している脅威の発見からインシデント発生時の対応支援、原因・影響の調査など、専門調査士およびコンサルタントが、お客様に最適なサービス・ソリューションをご提供致します。

尚、自社でインシデントレスポンスを行いたいお客様に必要なスキルを習得して頂けるよう、各種トレーニングもご提供しております。

今後もお客様にご満足頂けるよう、更なる技術力の向上とサービスの拡充を図って参ります。

これまでの皆様のご支援に心から感謝致しますとともに、引き続き、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。(サイバーフォレンジックセンター ご挨拶より)

以上

【サイバー攻撃対策】フォーカスシステムズサイバーフォレンジックセンター

Focus Systems サイバーフォレンジックセンター

お問い合わせはこちら TEL.03-5421-7360 営業時間: 9:00~17:45 (土曜・日曜・祝祭日定休)

メールでのお問い合わせ

当社の特徴 CORPORATE PROFILE 製品 PRODUCT トレーニング TRAINING サービス SERVICE カタログ CATALOG サイバーフォレンジックセンターについて CYBER FORENSIC CENTER お問い合わせ CONTACT

サイバー攻撃対策は、官公庁導入実績多数のフォーカスシステムズへ

PRODUCT 製品情報 TRAINING トレーニング SERVICE サービス

What's New

2014.10.27 NEW 製品情報「FORENSIC Falcon」の取り扱いを開始しました。

2014.09.24 NEW ホームページを公開しました

サイバー攻撃対策ソリューションやフォレンジック製品など、幅広い製品を取揃えております。

基礎から応用までフォレンジック調査に必要なトレーニングを講義しております。

インシデント調査やeDiscoveryといったお客様のニーズに合わせた様々なサービスを提供いたします。

今後とも、ご指導ご支援のほど  
お願い申し上げます。

